

布佐中学校だより 1月号



我孫子市立布佐中学校 令和2年1月7日発行

我孫子市布佐1301 ☎ 7189-2426 Fax 7189-2421



謹賀新年 令和2(2020)年を迎えて



新年明けましておめでとうございます。旧年中は本校教育活動の推進に対しましてご理解やご支援をいただき、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

本日の3学期始業式で生徒に話したことを報告いたします。

「本校の学校教育目標は「自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成」です。これは、2学期の終業式にも話しましたが、「自ら」という言葉の意味は、「自分から進んで～する」とか「自分から積極的に～する」、「自主的に～する」などの意味ととらえると思います。新学習指導要領をもとにした授業が小学校は令和2年から、中学校は令和3年度から始まります。そこには、「主体的で対話的な深い学び」というキーワードがあります。「主体的に～」というのは、「自分なりに考え、こんなふうにしようと自分で判断して取り組むこと」という意味ですが、これは、本校学校教育目標を「自ら学び」の意味に合致するものです。学習はもちろんのこと、行事や日常生活など様々なところで、自分なりに考えて自分で判断して取り組むことが大切だということが本校の目標の中にあるということを生徒、教職員すべての人たちで確認し、実践に向けて頑張っていきましょう。また、「共によりよく」とは、「お互いに認め合い、励まし合い、支え合って、自分の夢や希望の実現に向けて頑張り、それが社会貢献につながるような自己実現を目指しましょう」という意味です。3学期は、今年度のまとめ、締めくくりの学期であると同時に、3年生は4月からの新しい門出に向けた大切な準備期間、助走の時期もあります。それは、1、2年生も同じです。PDCAサイクルという言葉がありますが、P(Plan=計画する)、D(Do=実行する)、C(Check=評価、反省する)、そして A(Action=改善する)を1年という単位を通して、また、学期をとおして、そして、1か月、1週間、1日を通して日々前進していくように3学期の3年生は45日間、1、2年生は52日の学校での生活を過ごしてほしいと思います。」

以上が要旨となります。学校といたしましても、ご協力いただいた学校評価アンケート等をまとめて具体的な課題と改善策を考えていきたいと思います。また、学校でできること・できないこと、ご家庭にお願いすること、また、地域の皆様にお願いすること、皆で考えなければならないことなど具体的にできるところから進めていきたいと思います。どうぞ、今年もよろしくお願ひいたします。



○小中一貫運営協議会報告

12月19日(木)布佐中区小中一貫教育運営協議会が行われました。小中3校の教頭、校長、各評議員や自治会、PTAの代表の方々がメンバーとなり、学期に1度実施しています。今回の議題は、「防災」、特に昨秋の大型台風や集中豪雨の布佐地区の被害状況や各校の対応の状況を確認し、課題等について話し合いました。特に、布佐小・中との連携の強化や緊急時の避難や保護者引き渡しの方法等喫緊の課題について確認しました。今後、連携した対応策の検討、実施に向けて話し合いを継続していきたいと思います。

○「ふさ子ども学習室」紹介…主体的な「家庭学習」の習慣づくりのために…

保護者会の全体会や学校だより等でお知らせしたことがあると思いますが、「ふさ子ども学習室」が地域のボランティアの方々の運営により取り組まれています。布佐中区の小中学生の家庭学習の習慣づくりのため6教室(上町・おおばん・ふさの風・南近隣は木曜・復興会館・新木駅前は火曜)の夕方の2時間、学習支援ボランティアが常駐・支援して家庭学習の習慣づくりに力を貸してくれています。ノーブル活デーなどに対応してくれていますので、「主体的な」学習を進めるためにも利用してみてはいかがでしょうか。



授業だより・学校司書と連携した「絵本のポップ作り」（国語科）

～3年生が家庭科で制作した「絵本」を2年生が活かして～

12月18日(水)2年生の国語の「絵本のポップ作り」の授業が図書室で行われました。国語科の荒井教諭

が、昨年度の「帯作り」から発展させて、今年は、3年生が家庭科の時間に自分でストーリーや挿絵を創作して作り上げた「絵本」に、2年生が国語の時間に、その絵本を手にとった人が読んでみたくなる「ポップ」（絵本の内容を厳選した言葉や絵で紹介したもの）をつくるというものでした。布佐中図書室に勤務している本校司書が、専門家の立場から、帯とポップの違いや関連、作成する時の注意点などを丁寧に説明しました。また、図書委員会の生徒たちも、日頃の図書室運営の立場から説明してくれました。

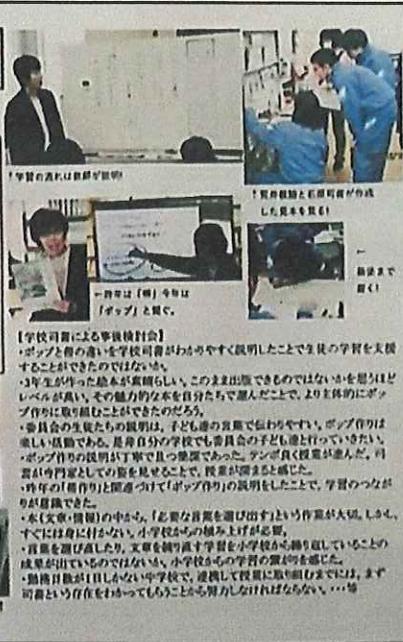
【「我孫子市学校図書館支援センター通信」に掲載されました】



【説明用作品例と授業風景】

用できる能力の育成」が重要とうたわれています。今まで、学校では、「総合的な学習の時間」にそのようなことは行われています。例えば、本校でも、林間学校では「裏磐梯の自然と布佐の自然の比較」「動植物の生息、種類や分布」等々、修学旅行では、「古都の歴史や伝統文化、郷土布佐の歴史や伝統文化」等々、理科や社会、国語や美術、技術家庭や外国語、音楽や体育等様々な教科での学びを結び付ける学習をします。この国語の授業によって、そのような教科横断的な学びが、教室でも多く取り入れられることが重要であると再認識させてくれた授業もありました。これからも学校図書館活用の推進に向けた取り組みを、すべての教科・領域の授業のなかで実施していきたいと思っています。

また、布佐の町の歴史や伝統文化等を学び、布佐の町についての提言をまとめる総合的な学習の時間の「ふさカリキュラム」のコーナーも図書室内に設置しています。現在、地域ボランティアの皆様で関係資料の収集に奔走してくれています。布佐の郷土の偉人・岡田武松博士の肖像画や関係資料を



学校図書館支援センター通信

2019年12月号

我孫子市では、2018（平成30）年に学校図書館支援センターを設置しました。学校図書館の「読書センター」「支援センター」としての機能の充実を図り児童青少年及び教員のみの学校図書館利用を推進しています。

学校図書館で授業！国語科「絵本のポップ作り」

12月16日(水)、布佐中学校の学校図書館（中林校員が担当）の図書館で、2年生の授業（授業者：月川真美教諭）が行われました。現行の3年生が員はんに作成した絵本（家庭科の学習）を読み、その絵本のポップを作成する学習です。荒井教諭と石森教諭は、授業についての打合せの時間をなんとか確保し、準備を進めました。ポップで何の特徴やどの難易度についての説明は、専門家である石森教諭員の生徒らに担当し、授業の進行や見の示すは、担任が行うという昇進な役割分担！また、2人に1人、ポップの見本を作成し、生徒がいました。見本作りをする中で、50点という短い学習時間内にポップを作成させることの難しさを嘆くなどといふ現実的問題、学習時間からは、積極的に生徒たちと競り、たくさんの意見を出していました。

布佐中学校2年生の先生たち、授業者の荒井先生、石森教諭員、図書館改装計画を進めてる図書員・ボランティアの皆さん、白井教諭員が頑張って50点のため授業ありがとうございました！

（学校・地域における開発実験）

（学校・地域における開発実験）

（学校・地域における開発実験）

【学校図書による授業検討会】

・ポップと書の違いを学校司書がわかりやすく説明したことでの生徒の学習を支援することができるのではないか？

・3年生が作った絵本が素晴らしい。このまま出版できるものではないかと思うほどレベルが高い。その実力的な本を自分たちで選んだ上で、より具体的にポップ作りに取り組むことができるだろう。

・委員会の生徒たちの表現は、子どもたちの言葉で伝わりやすい。ポップ作成は新しい活動である。是非自分の学校でも委員会の子ども達にやってもらいたい。

・ポップ作りの説明が丁寧で且つ深淵であった。テレビでも見ましたが、司書の門出としての姿を見ると、授業が盛んな感じだ。

・昨年の「帯作り」と関連づけて「ポップ作り」の説明をしたことで、学習のつながりが意識できた。

・本（文章・情報）の中から、「必要な言葉を選び出す」という作業が大切。しかし、それは身に付かない。小学校からの積み上げが必須。

・言葉を読み取られ、文を網羅する学習は小学校から心地よい感じでしていることの成果が出ていたのではないか。小学校から小学校の環境を感じた。

・塾務会議で日々いろいろな学校で、連携して授業に取り組むには、まず司書という存在をもつてもらうことから努力しなければならない。…等

この日は、本校が図書室活用推進

に向けての市の研究指定を受けている関係から市内の図書館司書の研修会も兼ねており、「本（文章・情報）の中から必要な言葉を選び出す」という作業はとても大切で、小学校からの積み上げも大切」や「委員会の生徒たちの説明も生徒自身の言葉で大変伝わりやすい」、「3年生が創作した絵本が大変素晴らしい、その本を選んだことでより主体的にポップ作りに取り組めたと思う」などの意見をいただきました。

また、国語の授業で家庭科で作成した絵本を使って言語理解力や情報活用能力、話し合いや発表による表現力やコミュニケーション能力を教科をまたがって横断的に身に付けることはこれからの授業の中でも大変重要なことと考えています。新学習指導要領の中でも、「何をどのように学び、その学びによって何ができるようになるのか、知識と知識を結び付けて、単なる知識ではなく応用・活用できる能力の育成」が重要とうたわれています。今まで、学校では、「総合的な学習の時間」にそのようなことは行われています。例えば、本校でも、林間学校では「裏磐梯の自然と布佐の自然の比較」「動植物の生息、種類や分布」等々、修学旅行では、「古都の歴史や伝統文化、郷土布佐の歴史や伝統文化」等々、理科や社会、国語や美術、技術家庭や外国語、音楽や体育等様々な教科での学びを結び付ける学習をします。この国語の授業によって、そのような教科横断的な学びが、教室でも多く取り入れられることが重要であると再認識させてくれた授業もありました。これからも学校図書館活用の推進に向けた取り組みを、すべての教科・領域の授業のなかで実施していきたいと思っています。

また、布佐の町の歴史や伝統文化等を学び、布佐の町についての提言をまとめる総合的な学習の時間の「ふさカリキュラム」のコーナーも図書室内に設置しています。現在、地域ボランティアの皆様で関係資料の収集に奔走してくれています。布佐の郷土の偉人・岡田武松博士の肖像画や関係資料を

はじめ「ふさカリキュラム」に関する多くの貴重な資料の収集・活用にも力を入れていきます。布佐中の図書室で、布佐中生徒たちが地域の皆様によって寄せられた貴重な資料から情報を活用し、自分の言葉でまとめ上げる。時には、地域の皆様から直接話しを聴き、語り合う…そんな図書室にしたい思います。ご来校の際は、ぜひとも、保護者、地域の方々も気軽に図書室にお立ち寄りください。

○「紙」で読書?! ……電子書籍派よりも「紙」で読書の方が～

先日、下記のような新聞記事がありました。それは、「読書をする際、スマートフォンやパソコンなどの電子書籍よりも紙の本を読む人が、何事にも進んで取り組む意欲や、多面的に考える能力が高くなりやすい」という調査結果を報告するものでした。国立青少年教育振興機構が発表したもので、20代から60代の5000人を対象に読書に関する主な媒体や読書時間を調査しました。媒体として紙、スマホやタブレット、パソコン、複数の電子機器、ほとんど読まないの5グループに分類し、①物事に進んで取り組む意欲(主体的行動力)②多面的、論理的に考える力(批判的思考力)③自分を理解し肯定する力(自己理解力)をそれぞれのグループに出して自己評価してもらう内容です。その結果は、「紙」の本を読んでいるグループの人たちのほうが、主体的行動力、批判的思考力、自己理解力とともに、他のどのグループよりも高かったということです。同機構は「こうした力は媒体にかかわらず読書習慣のある人の方が高いが、紙がより優れている傾向が鮮明になった」としています。

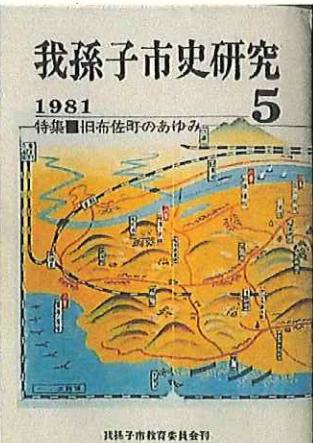
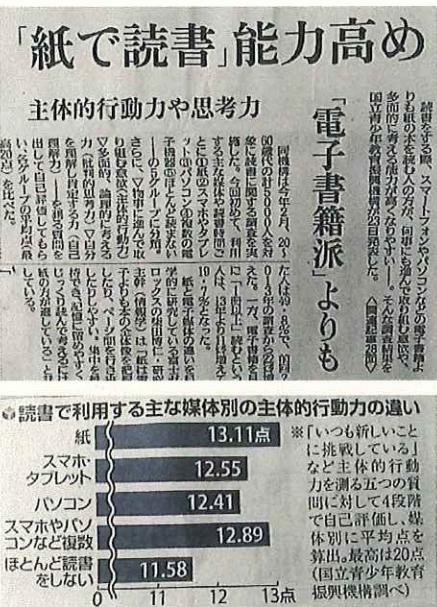
上記の内容は、紙の本をただ単に「読んでいる」からというだけでなく、本を手にとって自分の興味や関心のあることをより深めたいとか高めたいとかいう「読もう」とする気持ちがあることにも関連しているのではないでしょうか。ただ、ふと本を手にして少しだけ目を通してみたら意外と面白くてそのまま読み進めてしまった、ということもあるでしょう。大切な「本との出会い」が学校の図書室で待っています。

○本の紹介…我孫子市史研究 第5巻「特集 旧布佐町のあゆみ」… 【我孫子市教育委員会刊5巻】

本校では総合的な学習の時間に行う「ふさカリキュラム」という授業があります。これは、布佐中区の小学校3年生から中学校3年生までの7年間に布佐の町を中心とする郷土学習で、布佐の町が輩出、ゆかりのある岡田武松博士や松岡鼎、柳田国男などの偉人たちや伝統・文化、また水害の歴史などを学習するものとなっています。来る1月20日には、我孫子市文化・スポーツ課主幹で白樺文学館及び杉村楚人館の辻 史郎館長をお招きして布佐の歴史や文化についての講話ををしていただく予定になっています。

また、2月14日には、地域のふさカリキュラム語り部ボランティアの皆様から直接布佐の歴史や文化についてお話を伺う予定になっています。そんな「ふさカリキュラム」の学習内容に大変関連する内容が掲載されている我孫子市教育委員会が発刊した「我孫子市史研究」(第5巻)を紹介します。これは今から39年前の1981年に「特集■旧布佐町のあゆみ」としてだされました。地元布佐に住む方々の原稿も多数掲載されている点もさることながら、我孫子、布佐を長年研究されている研究者や布佐の偉人といわれる方の親類縁者、ゆかりのある方々の原稿も多数掲載されています。「近代布佐の水害」「賃取橋・栄橋の研究」「布佐気象送信所」「旧布佐河岸の家並と生活」「布佐八景」等々の大変興味深い内容が掲載されています。図書室の「ふさカリキュラムコーナー」にありますので、ぜひ手に取ってお読みください。(1/20は保護者・地域の方々の参加も可です 13:30~多目的室です。)

ある調査結果から…



○文化活動発表会報告…「布佐タイム」(総合的な学習の時間)～体験から学ぶ大切なもの～

昨年の11月30日(土)に「布佐タイム」(総合的な学習の時間・年間8回16時間)を中心とした恒例の文化活動発表会が行われました。布佐タイムは総合的学習の一環として長年行われているもので、1年生から3年生まで同一講座を3年間通して行う学習です。体験を通して学び、生涯学習の土台となる大切な学習と位置付けています。中学校を卒業した後も高校や大学、社会人になっても続いているという卒業生も多くいます。柔道やなぎなたなどの武道や華道、茶道、三味線や琴、ハーモニカ、絵画、書道や郷土芸能等の芸術、伝統文化に加え、グローバルピースなどの国際理解、布佐の偉人・岡田武松博士の郷里としての誇りを受け継ぐ気象学は気象専門家の先生方のご支援を受けて引き継がれています。また、当日は技術家庭科で作った作品の展示や特別支援学級で制作した品物の販売、吹奏楽部や美術部、市平和事業長崎派遣報告や国際交流スピーチや葛南英語大会生徒の発表も行われました。ボランティアさんの協力による地元布佐の人形展も同時に開催され、古くから布佐の町に伝わるひな人形などの展示も行われました。布佐タイムの講師は地元ボランティアの講師の方々が務めてくださり成り立つ大切な授業でこれからも大切な学びとして継続していきたいと思っています。ご協力本当にありがとうございました。



○1月・2月の主な行事予定

日	曜	1月	日	曜	2月
7	火	始業式 避難訓練(不審者対応) ノー部活デー	6	木	ノー部活デー
8	水	3年実力テスト 完全下校16:45	9	日	部活動停止期間～14日朝まで
9	木	委員会 I	10	月	完全下校17:15
16	木	委員会 II ノー部活デー	12	水	1.2年定期テスト① 県立高校前期入試①
17	金	1年総合壁紙噴火記念館佐藤館長特別授業23校時	13	木	1.2年定期テスト② 県立高校前期入試②
18	土	東葛飾技術・家庭科作品展～19日(県民プラザ)	14	金	委員会 I 3年ふさかりキュラム語り部さん授業
20	月	3年布佐カリキュラム特別授業(講話)13:30～	20	木	ノー部活デー
23	木	3年定期テスト① ノー部活デー	21	金	委員会 II
24	金	3年定期テスト②	22	土	PTA運営委員会
26	日	新春マラソン	25	火	完全下校17:30
27	月	ノー部活デー 完全下校17:00	27	木	ノー部活デー
29	水	新入生保護者説明会	1/20 の特別授業は見学可ですのでお越しください。		

◇ 正門及び通用門を生徒在校時に閉めることについてお知らせとお願い ◇

本日の始業式の後に校内への不審者侵入対応のための避難訓練を実施しました。大阪教育大学附属池田小学校での児童殺傷事件はじめ、校内への不審者侵入の事例が多く報告されています。本校でも、不審者対応の避難訓練を実施しましたが、それに伴い、正門と通用門の改修、塗装が終了しましたので、生徒在校時は正門と通用門を閉めることとなりました。保護者、地域の皆様にはご面倒をおかけいたしますが、通行の際は、ご自身で開閉してください。よろしくお願ひいたします。